

シンポジウム「卒業研究を振り返って～大学で学ぶということ～」

社会福祉学科 4 回生 19062096 白 眞卿

1. 卒業論文題名

韓国における福祉職の人材育成のための高校福祉科設置導入の一考察
—日本の高校福祉科をモデルとして—

2. 理由・動機

高齢社会への急激な進展による福祉ニーズの拡大と多様化に伴い、長期的な効果を考慮した福祉専門職養成や福祉マインドの育成は緊急な課題である。こうした課題の解決に向け、ひとつの方案として高齢化過程が韓国と類似した日本での高校福祉科教育を韓国に導入することについて考察してみたいと思った。

3. 主張したかったこと

韓国への高校福祉科導入の必要性を明らかにし、日本の高校福祉科制度導入の実現可能性について考察を行った。

4. 卒論作成の過程で苦労したこと

- ・資料を読んで考えをまとめること
- ・自分の考えや意見を文章にすること

5. 卒論を書きあげての感想

- ・思ったより難しかった
- ・達成感を味わうことができた
- ・問題について考え、その考えをまとめ、人に説明することについて学ぶことができたと思う

6. 大学4年間の学びを振り返って

長かったような短かったような4年間でしたが、やはり早かったような気がする。
勉強も旅行などももっと計画的にできなかったことが心残り
(大学ならではの休みの時間を効率的に活用できなかったことも)

白 眞卿

私は「韓国における福祉職の人材育成のための高校福祉科設置導入の一考察——日本の高校福祉科をモデルとして——」というタイトルで卒業論文を書きました。このタイトルで書こうと思った理由、動機としては、3回生の時、空閑先生の「福祉科教育」という授業をとったんですが、そこで初めて日本の高校福祉科の存在を知って、韓国の高齢社会の急激な進展によるニーズの拡大と多様化に伴い、長期的な視点を考慮した福祉専門職や福祉マインド育成は緊急の課題であると思ったので、こうした課題の解決に向け、一つの案として高齢化で韓国と類似した日本の高校福祉科教育を韓国に導入したらどうかと思って書くようになりました。

主張したかったことは、韓国の高校福祉科導入の必要性を明らかにして、日本の高校福祉科制度を導入することの実現可能性について主に言いたいと思いました。

内容について説明すると、韓国に高校福祉科が必要な背景、状況について明らかにした上で、日本の現在の高校福祉科について詳しく説明し、それを韓国で、どう生かしたらいいかについて書きました。

次に、卒論作成で苦労したことは、資料を集めるのも大変でしたが、それを読んでまとめることが最も大変でした。資料を読んで自分の言葉で書けば書くほど、何がいいかったのか、忘れてしまったので、それが一番難しかったです。頭の中にある自分の考えや意見があっても、それを実際に文章にしてみるとおかしくなったり、意味がわからなくなったりしたこともあって、大変でした。そしてパソコンのエクセルとかの使い方がわからず、表を載せたくても、簡単な表でも作るのに何時間かかっていたりしたので、前もってパソコンの技術、エクセルは学んでおいた方がいいかなと思いました。

卒論を書き上げての感想。自分が言いたいこと、主張したいことが、はっきりあったら、すらすらと書けるかなと思ったんですが、でもそれが思ったより結構難しく、構成とか章立てとか、何章に、どういう内容を書くのか、とても難しかったです。でも今になって自分が完成した27ページの論文を見ながら、すごくうれしくて「自分も書けるんだ」と思って、達成感を味わうことができました。それだけではなく、一つの問題について深く考えて、その考えをまとめて、自分の言葉で人に説明することって、こういうものなんだなと、学ぶことができたと思います。

最後に、大学4年間の学びを振り返ってみると、大学ならではの夏休み、春休みを効率的に活用ができず、ボーッと過ごしたので後悔しているんですが、パソコンの勉強であれ、英語の勉強であれ、旅行であれ、計画を立ててやればよかったと思っているので、皆さんは、ちゃんと時間を大切にちゃんと計画を立てて悔いの残らない大学の4年間の生活を送っていただけたらなと思います。以上です。

韓国における福祉職の人材育成のための

高校福祉科設置導入の一考察

—日本の高校福祉科をモデルとして—

19062096

白 眞卿

<キーワード> 「高校福祉科」「福祉人材育成」「福祉ニーズの増加」

<梗概>

本稿は、日本の福祉職における人材育成のために設置された高校福祉科をモデルとし、韓国への高校福祉科設置導入についての考察を行ったものである。韓国の急激な高齢社会化によるさまざまな社会問題、とりわけ介護福祉士養成制度から発生する問題、急変する社会の中で多様な福祉ニーズが増加している状況から高校福祉科教育の必要性を感じ、すでに設置している日本の高校福祉科について調査を行った。日本の高校福祉科の定義や設置の経緯及び目的、現在の設置状況やカリキュラムなどの現状を取りあげた。また、先行研究とともに現場への調査を行い、そこからみられる成果及び課題を明らかにした。そうした考察をもとに韓国的高校へ福祉科を設置するにあたり必要なこと、実現後に得られる成果および高校福祉科導入における今後の課題について考察した。

<目次>

序章 研究の背景及び目的	第二節 高校福祉科の生徒について
第一節 研究背景	1. 高校福祉科卒業生のアンケートから見る現状
第二節 研究目的	2. 高校福祉科卒業生の進路状況
第一章 日本の高校福祉科の歩み	第三節 高校福祉科の実践例
第一節 高校福祉科の定義	—滋賀県立長浜高等学校
第二節 日本における高校福祉科の必要性	第四節 高校福祉科の成果と課題
第三節 日本における高校福祉科の設置経緯及び目的	1. 高校福祉科の成果
	2. 高校福祉科の課題
第二章 日本の高校福祉科の現状及び課題	第三章 韓国への導入検討
第一節 高校福祉科の現状	第一節 高校福祉科が必要な社会状況
1. 設置状況	第二節 日本をモデルにした理由
2. 教育課程	第三節 実現に向けて
	結論